

西暦	年号	事項
一八二二	文政四	・二月十日生。父、伊豫国松山領久米郡南久米村鎮座・郷社「日尾八幡神社」祠官三輪田清敏。母「荻山氏」。米名は秀雄。後、常貞。
一八三三	文政六	・一月八日、次弟高房生。〔3〕
一八二八	文政十一	・六月二十一日、末弟元綱生。〔8〕
一八四八	嘉永元	・四月十六日、父従五位下河内守清敏歸幽(享年五十四)。家職を継ぐため上洛。〔28〕
一八五三	嘉永六	・九月二日、松山藩儒・書家「日下伯巖」に謁見。〔33〕
一八五五	安政二	・十二月二十六日、母米の姪、荻山要(叔父荻山光次次女)と結婚。〔35〕
一八六一	文久元 (万延二)	・七月、和氣郡三津浜沖停泊の黒船(ロシア船)を見物(沿岸測量)。〔41〕
一八六三	文久三年	・一月二十四日、米山「木屋」木村家で大小を借り、上洛。〔43〕
一八七一	明治四年	・二月二十三日、末弟元綱、京都持院で「足利三代木像暴首事件」(二十七日捕縛)。〔43〕
一八七七	明治十年	・米山、大阪堂島の松山藩蔵屋敷に幽閉。四月二十五日帰国後、九月まで閉門蛰居。〔43〕
一八八八	明治二十一年	・十月、米山、松山県より日尾社祠官に任ず。〔51〕
一八八七	明治二十年	・七月、次弟高房長男春元を養嗣子とする。〔57〕
一八八八	明治二十二年	・十二月三十一日、母米逝去(享年九〇)。〔68〕
一八八九	明治二十三年	・十二月、米山、揮毫料求む。私儀、内閣困窮二付、一切礼金なしには把筆不致候(日記)〔69〕
一九〇八	明治四十一年	・十一月三日没。墓所旧日尾社別当寺、真言宗豊山派浄土寺。〔88〕

米山略年表

◎高市俊次作成の年表より(米山顕彰会編『米山の魅惑』清流出版 2008)

●愛媛大学図書館 米山コーナー (図書館2階西エリア)



米山日記 [レプリカ]と  
米山関連図書の閲覧が可能です。

< 米山関連図書 >

米山：人と書  
浅海蘇山／著 (墨美社)

米山の魅惑  
米山顕彰会 / 監修 (清流出版)

三輪田米山遊遊  
〜いしづみガイド〜  
横田無縫 ほか / 著 (木耳社) など



< 米山日記のレプリカ >

この「のぼり」が  
目印です!



平日 9:00～22:00 (夏季/冬季休業中は17:00まで) ☎ (089)927-8845  
土・日・祝 9:30～17:00 (夏季/冬季休業中は休館)

会場 [愛媛大学ミュージアム]のご案内

入館料 無料  
開館時間 午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)  
休館日 (1) 火曜日  
(2) その他 年末年始(12月28日～1月4日)  
大学入試 センター試験日、前期・後期日程試験日  
メンテナンス休館(2月1日～15日)  
臨時休館

☎ (089) 927-8293  
※一部の作品の入れ替えを、12月末頃行う予定です。

- 伊予鉄道市内電車をご利用の場合  
環状線「赤十字病院前」下車、北へ徒歩約5分
- 伊予鉄バスをご利用の場合  
東西線「愛媛大学前」下車
- 駐車場  
土曜・日曜及び祝祭日(いずれも休館日を除く)は、  
正門から入ってキャンパス内の駐車場をご利用ください。  
(満車の場合は利用できません。)  
帰りは駐車場の出口から出てください。  
平日は公共交通機関を利用願います。



〒790-8577 松山市文京町3番



http://www.museum.ehime-u.ac.jp/



http://www.lib.ehime-u.ac.jp/

2012年10月発行



三輪田米山【みわだべいざん】

三輪田米山は、一八二二(文政四)年、伊予松山の日尾八幡神社祠官三輪田清敏の長男として生まれ、一九〇八(明治四一)年に没した、伊予の神主である。米山は、明治維新をはさんだ激動の時代に生きながら、王羲之を初めとする書の古典に深く学び、独自の書風を形成した。

米山の書家としての名声は、存命中から伊予一円に高く、それは、日尾八幡神社の注連石に記されている「鳥舞魚躍」や、伊予豆比古命神社(椿神社)注連石「龍游鳳舞」をはじめとするおびただしい数の神社の注連石等の揮毫に現れている。その書は、優れた造形性を持ち、爆発的なエネルギーにみちた、古今に類を見ないものであり、近代詩文書のさきがけとさえいわれる。

大阪の実業家山本發次郎は、画家佐伯祐三の発掘等で著名な蒐集家であるが、米山を「あの明月、良寛、寂庵、慈雲らに劣らない、あるいはどうかすると大字においてはこの四者にも勝り、格においては慈雲に次ぐものではないか」(「無名の書聖 三輪田米山」と賞賛している)。

米山の日記(いわゆる『米山日記』)は、嘉永元(一八四八)年に米山が家督を継いでから明治四十一(一九〇八)年八十八歳に至るまで詳細につづられたものであり、米山の人となりを示すだけでなく、当時の日本、伊予の歴史や生活を具体的に記す、貴重な歴史史料となっている。





六曲一双屏風 屏風 [各132×54cm] (愛媛大学蔵)

- 醉花 …… 花に酔う
- 高德 …… 徳が高い
- 心法 …… 心からよいものだと思う
- 好古 …… 昔を好む。昔を大切にす
- 飲楽 …… 飲み楽しむ
- 有終 …… 物事の最後(最後の仕事)



- 清心 …… 清らかな心
- 坐忘 …… 雑念を去って我を忘れる
- 嘯月 …… 月に向かってほえる(詩歌を歌う)
- 汲古 …… 古い書物を調べる
- 篤雅 …… 雅であることをもっぱらにする
- 無為 …… 自然のままであること

### 少字数書の造形

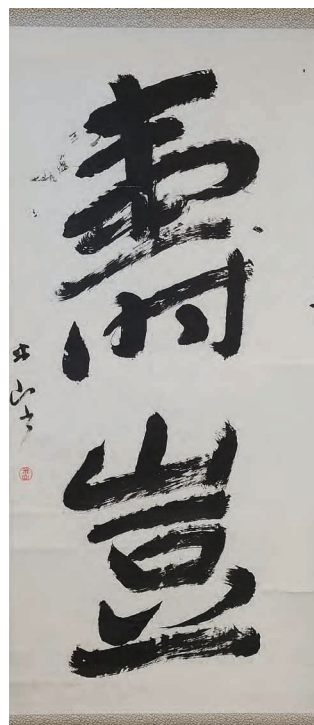
米山の作品中には、一字あるいは数文字の作品が多く見られる。最晩年こそ大字の作品は少ないが、数百点規模で揮毫しているであろう。米山と言えば、大胆な書きぶりが評価されるが、この少字数の作品をもってその評価をすることも多いのではなかろうか。確かに、鑑賞する側からすれば、大胆さや奔放さがもっともわかりやすいのが少字数である。

米山の少字数の題材は、『論語』『老子』等の経書からの引用が最も多い。他にも、唐代の文学作品から採られたものもある。これらには、重複した題材が多くあるが、これは江戸時代から作られている『書家自在』から引用している場合が多い。これは、現代でいう『墨場必携』であり、字数ごとに題材やその出典が書かれている。

また、少字数には、横広の作品がある。いわゆる扁額と言われるものである。扁額は横に広いが一行一字の縦書きであり、技術的に高いものが要求される。落款との調和も作品の出来不出来を左右する要素であり、一体として鑑賞してみると空間の複雑さが楽しめる。



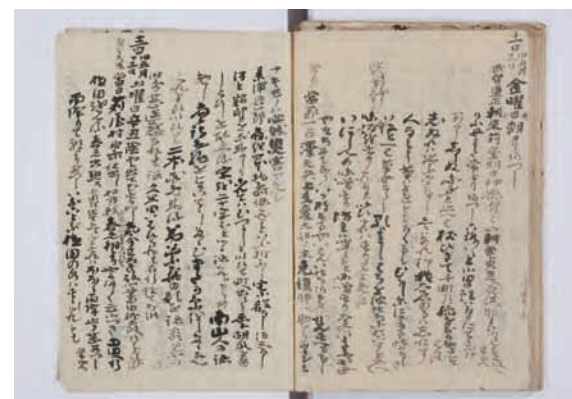
徳暉 軸 [70×33cm] (個人蔵)



壽峯 軸 [130×59cm] (個人蔵)



三輪田米山肖像



米山日記 (愛媛大学図書館蔵)  
常時レプリカを閲覧できます (愛媛大学図書館 2F)

### 愛媛大学蔵 六曲一双屏風について

この六曲一双の屏風は、松山市の旧家が昭和の初めごろに家を建て替えたとき、このぐらいのものが家にはあったほうがいいということで、表具屋から求めたものである。十二枚はまとまってあったものと伝えられており、もともと表具屋が持っていたものか、そのために調達したものかは不明だが、順序性を含め、十二枚を一連のまとまりとして書いたものではない。

平成二十三年秋、愛媛大学において研究に役立つものならばという所有者のご意思により、愛媛大学が譲り受けた。

これらの題材は、多くが『書家自在』に掲載されていて、米山の得意な題材を揮毫したと思われる。十二枚の作品ともに違う表情をしているが、墨量・運筆の速度・墨の濃度が最高に調和し、力強く切れのよい線質と立体的な空間構成が際立っている。米山は王羲之の書法を学んだことで知られるが、この作品群には、羲之の風貌はあまりなく、むしろそれらを超越して、新たな世界を築いている。数ある作品の米山書の中でも、五指に入る名作である。